

(S2020-37 用)

研究課題名	結腸および直腸穿孔に対する緊急手術における予防的創部陰圧閉鎖療法 (NPWT) の有用性についての検討
研究期間	研究実施期間：西暦 2020 年 12 月 10 日 ～ 西暦 2022 年 3 月 31 日 (対象期間：2015 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日)
研究の目的と意義	<p>【目的】 結腸および直腸穿孔に対する緊急手術は、創部感染のリスクが高いと言われており、創部感染は入院期間の延長、入院費用の上昇、死亡率との関連が指摘されています。陰圧閉鎖療法と言われる創処置の創部感染に対する有用性は既に報告されていますが、緊急手術における予防的な使用に関しては不明確な部分が多いのが現状です。治療法の向上のために多施設で症例の情報を集めて検討を行うことを目的としています。</p> <p>【意義】 下部消化管穿孔に対する緊急手術のような汚染度の高い手術を対象とした際の陰圧閉鎖療法（以下、NPWT）の効果に関しては不明確な部分が多い。 予防的な NPWT 施行の Surgical Site Infection (SSI) 発生に対する効果が確認出来れば、重症疾患の一つである下部消化管穿孔手術の転帰を改善できる可能性があり、全国的な多施設のデータによる解析は重要と考えられます。</p>
研究方法	2015 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日に観察研究参加施設で下部消化管穿孔に対して手術を施行した症例を対象に、対象となる患者さんのデータを診療録からのみ収集・管理し、症例分析・標準治療に役立てるデータ収集を実施します。 データにおいては、基本情報、生理的情報、治療関連情報（来院時情報、血液・画像データ、治療・転帰情報など）を収集します。
個人情報の保護、研究参加の拒否について	利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。 また、本研究への参加拒否を希望される患者さんについては、担当医師にお申し出ください。
結果の公表	この研究の結果は、研究に関連する学会や学術雑誌等で発表されることがありますが、その際も対象となった個々の症例の報告はなされず、集計されたデータをもとに得られた結果のみを公開し、個人情報は守られます。
問合せ先	京都第二赤十字病院 救急科 (職名・氏名) 副部長・石井 亘 〒602-8026 京都市上京区釜座通丸太町上ル春帯町 355-5 TEL : 075-231-5171 (代) FAX : 075-212-6176 (救命救急センター)

その他 (研究実施体制等)	【研究代表者】 東京医科歯科大学医学部附属病院救命救急センター・大友 康裕 【研究責任者】 東京医科歯科大学医学部附属病院救命救急センター・中堤 啓太
------------------	--